

散歩からみた快適な歩行空間のデザインコンセプトの抽出

九州大学工学部 正会員○坂本 紘二 正会員 外井 哲志
学生員 李 相光

1. はじめに

散歩においては、純粹に歩くことが目的化され、さまざまな機能面の配慮からは自由であり、その分散歩者こそ真に全感的に快適性を求めている、歩行空間のある種の理想形態(理念型)として「散歩道」を捉えることができる。しかし、日本において欧米諸国のように日常的に散歩がまだ定着しているとはいえず¹⁾、実態調査のみでは、豊かで多様な「散歩」の全体像を捉えられないという課題を抱えている。そこで、本稿は、前稿²⁾に引き続いて、随筆、紀行文、詩などで表現された散歩に関する文献類を渉猟し、好まれる散歩空間の種類や特質を整理し、より快適な歩行空間整備のためのデザインコンセプトの抽出を試みたものである。

2. 散歩と歩行空間の整備

新聞社のアンケート調査によると、やっているあるいはやってみたいスポーツや運動の中で、どの年代でも(高齢者では断然多くなる)トップに挙げられるのは、散歩である³⁾。健康ブームの中で、現在、歩きや散歩が見直され、ちょっとしたブームになっている。福岡市では健康づくりモデル地区整備の中で歩行用の街路空間2ヵ所計4.6kmを整備中である。

一方、種々のプロムナードや市街地の舗道を始めとして、歩行空間の景観設計・整備が現在盛んに進められているが、それらの大半は、まだ単一的で機能面、視覚面に偏重したきらいがあり、「硬くひざに響く⁴⁾」ものが多く、心地よく歩くことのできる、または歩きたくなるような歩行空間になっているとはいえないのが現状であろう。リゾート地でも散歩道は作られていない、物足りない道ばかりが多い、歩道は歩きにくい、といった指摘は多い。

今後高齢化社会を迎えることを考えても、歩行や散策の重要性は極めて高く、個々人自身の散歩道⁵⁾として気持ちよく歩ける歩行空間は、都市空間のなかで一層大きなウェイトを占めるに⁶⁾違いない。住民参加による、土地の風土性や歴史性を取り込んだ、また健康づくりや心地好い街づくりにもつなが

る、そのような歩行空間の整備がいま問われている。

3. 散歩の効用

散歩の効用として、適度の運動による体の機能回復・健康づくりにつながるというだけでなく、草花や小動物との対話ができ、季節の移ろいを感じるという自然体験ができ、見知らぬ人とも話しかけ合うようになり、人々のコミュニケーションが図られるといったことは、一般によくいわれる。

散歩はただの運動ではなく、見る、感じる、考える、出会う、発見する⁷⁾ことで、種々の精神領域の充実がえられる。出会いと交感を通して、個々人の情緒が呼びおこされ、安定を得、生のリズムを整えることができる。散歩を通して自分自身とも出会う。道具が不要で、金がかからず、自由気ままに、心にしみる時の充実が得られ、人間らしい等身大の贅沢⁸⁾ともいわれる。

さらに重要なことは、様々な情報を得て町を再認識し、生活圏の状態を知り、地域に対する共同感情の形成や愛着の源ともなる⁹⁾ということである。つまり、散歩は、住民参加による快適空間の町づくりの原点にもなりうるのである。

4. 散歩で好まれる空間の種類と特質

散歩者は、どのような場所や空間が散歩にふさわしいと考えているのであろう。エッセー類から、拾い上げてみよう。散歩者それぞれに散歩コースがあり、実に様々な箇所が選ばれ、好みも評価も異なるのは当然のことであるが、よく指摘される散歩空間、その特徴や魅力および空間が持っているキー概念を整理すると表-1¹⁰⁾のようになる。

指摘された空間は、道空間に限らず、スポット的な箇所における歩路も含まれている。それらについては、各箇所の特徴を活かすようにして、各箇所の間を歩行空間で滑らかに連続させ、ネットワーク化を図っていくことが整備上必要になってくる。

5. デザインコンセプトの抽出

歩行空間が散歩だけに利用されるものではないことは当然であるが、散歩したくなるような歩行空間

表 1 散歩で好まれる空間

空間の種類	空間の特質	空間が持つキー概念
横路、丁地	人間生活の凝縮した姿。 土が残っている。植物が多い。季節感。 動物が多い。生活の工夫（転用物）。 迷路性。狭く、居心地が悪い。 自動車が少ない。静かである。	生活の臭い 大地とのつながり 親密感 静けさ 落ちつき
飲食街、旧道	都会の迷路。 朝が面白い（夜と朝の落差）。	迷路性、賑わい 別な姿の発見、湿り気
駅、バス停、船着き場	映画の舞台。人生の旅を見る。 見どころの多い空間。	人生との重なり 出会い、賑わい
運河、堀池、川、湖、噴水	生命感に溢れる空間。 運河の真ん中から陸地を見る視点は新鮮。 下町情緒は川によって醸成される。 川に沿った散歩道。 水辺の植物・草花の観察。 水門のたたずまいや水面や近くに戯れる小魚は散歩の清涼剤。 噴水の安らぎ。	水辺 生の流れ 動きと変化 生きものの交流 湿り気
橋	二つの世界をつなぐ。ドラマチックな空間。 橋と川という水辺の構図は絵画的で秩序的。 空が広がる。眺望がきく。 橋上から川面を眺める。	物語性 出会い 開放性 水辺
谷の町、坂の町	谷は俗世間の象徴。 生活の陰影あふれる空間。 坂と谷のある風景は温かい生活感覚がある。 谷の町は平地よりも古い家がおおく、生活道具も古い。 坂道は変化に富む。意外な眺望が開ける。	生活の臭い 陰影 歴史性 変化 謎・神秘
高台、丘	風景を俯瞰する鳥の視点。 小高いところから自分達の生活を眺めるときの新鮮な感覚。 遠景の眺めは、心を解放させるのに格好。	視点場 開放性 広がり
公園	いろいろな人間のドラマが垣間見える。 植物が多い。公園で散歩者も癒える。 公園で人々の動作を眺める。	人々との出会い、発見 自由、休息、安らぎ 陽気、自然
林、森	自然の音（鳥の鳴き声、葉音、水音）。 自然のリズム。木々の姿色（季節感）。 落葉樹の林がよい。落葉をふみしめる音。 林や森は空想の散歩。森林浴。	自然、生のリズム 変化、柔らかなさ、風 静けさ、安らぎ 快感
旧道、道	旧道は街の歴史的メッセージを豊富に持つ歴史的町並み。ロマンチズム。落ち着き。旧家。土壁、なまこ壁。	歴史性、物語性 時勢、風土 落ちつき
神社、開地	静かである。 植物園並みにいろいろな花が咲いている。 著名人の墓がある。	人生との重なり 出会い、発見 静けさ、植物

であれば、快適性は得られているに相違ない。また、注意すべきことは、人それぞれであるのが散歩の特徴であり、例えば、雑踏・混雑も、ある散歩者にとっては好まれる場合があり、また、人によってもその時の状況や気分によって評価が分れたり、あるタイミングで発見があったり、感動が呼び起こされたりすることである。そのような異なる評価を受けがちである面を配慮した上で、なお、散歩者に共通する歩行空間のデザインコンセプトを取り上げてみると、以下に示すような項目が指摘できる。

- ①【開放性】開放感があり、眺望に広がりがあること。閉塞感、また、自動車・自転車・看板・電柱等による空間占有は避ける。
- ②【変化・多様性】単調さ・均質性は不快感を与える。歩路の線形も曲がり、緩やかな坂の高低差、曲がり角などの変化があり、奥行のある謎めいた神秘への期待感や発見の喜びを与える。
- ③【リズム】変化とも関係する、歩く人の早さにあった、その人の生や感性に響き合うような、必ずしも規則的ではないリズムがあり、空間を構成する要素の形態をリズムカルにする。
- ④【柔らかさ】土が望まれるような足下（路面）の感触を始めとして、安らぎを与える植物や水などを配置する。硬い印象を与える素材や画一性は避ける。

- ⑤【落ち着き・静けさ】都市の喧騒から脱け出して、人々が自分に出会い、思索を誘う。

- ⑥【自由性】型にはめ込まれない。

- ⑦【自然性】自然との共生・調和を図る。

- ⑧【ヒューマンスケール・親密性】空間が広すぎたり、高すぎたりすると居心地が悪い。歩く速度にも適合する程良いスケールで、親近感を与える。

- ⑨【にぎわい】人々との出会い、コミュニケーションを豊かにする。

- ⑩【生活の臭い】住んでいる人々の生活の臭い、生の感覚を呼び起こす。

- ⑪【湿り気】乾いた印象でない、しっとりした雰囲気を与える。

散歩の効用を高めるには、以上に示したような概念に配慮し、色彩や感触を含む材質を選択し、「風景・眺望」・「水辺」・「休息・飲食の場」を配置し、「サインシステム」・「街具」を適切に施し、

「出会い・発見」・「歴史性」・「物語性」を演出することが必要である。

【参考文献】 1) 大井・フリス：『ヨーロッパ文化と日本文化』、岩波文庫、p. 27. or 大佛次郎「散歩について」、『日本の名随筆32、散歩』、作品社、1993. 所収。 2) 坂本・外井・花田：『散歩』に着目した歩行空間のあり方について、土木学会年講、1993・9。 3) 毎日新聞、1993・10・15.、読売新聞、1993・11・3。 4) 野田正彰：失われた「散歩の心」、日本経済新聞、1993・11・16。 5) 長田弘：小道の収集、日本経済新聞、1993・3・28。 6) 鳴海邦碩他編：『都市デザインの手法』、学芸出版社、p. 59, 1990。 7) 文献2)に散歩中の行動のさまざまなを整理している。 8) 松永伍一：『散歩学のすすめ』、講談社、p. 27, 1993。 9) 柳沢京子：歩きたくなる道には大樹が似合う、交通工学、vol. 28, No. 25, p. 57, 1993。 10) 松田良一：『散歩の詩学サンボロジー』、駸々堂、1988, など。